

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第13回は、楽しむ です。

逗葉高校の皆さん、中間テストも終わりほっと一息というところでしょうか？そして、ちょっと時間が経ってしまいましたが、逗葉祭、大変お疲れさまでした。

一般公開の日に、台風や秋雨前線の影響を受けてしまったけれど、大きな事故もなく、1300名以上のお客さまにご来場いただいて楽しんでいただき、成功を収めることができました。実行委員の皆さん、生徒会役員の皆さん、各係の皆さん、逗葉祭をしっかりと支えてくれて、ありがとう。そして委員会活動や部活動の成果を見せてくれた皆さん、クラスの発表をがんばった皆さん、ステキな企画をどうもありがとう。

一人ひとりがそれぞれの立場で参加してくれたと思いますが、その力が集まって学校の行事を動かします。いつも言っていますが、皆さんは逗葉高校の文化を作り上げる主役です。今回の経験を、良かったことだけでなくイマイチだったと感じたことも、しっかりと受け止めて来年の逗葉祭をさらに進化させていってください。

開会式で実行委員長長の松浪さんが、「廊下の隅でスマホをいじっている人がいなくなるような全員参加の逗葉祭、キラキラ輝く逗葉祭にしたい」と思いを語ってくれましたね。文化祭に限らず、行事は参加し、楽しんだ者勝ちです。大変さは面白さでもあるのです。自分から進んで楽しめる人は、周りをも楽しませることができます。委員長は、積極的に参加することが楽しさの秘訣だと、知っていたのでしょうか。

楽しむという行為はとても能動的な行為です。積極的に楽しんでやろう！という気持ち無しには、どんな企画もパフォーマンスも色あせてしまいます。そして楽しむという行為は、とても知的な行為でもあります。想像力が刺激され、創造性が試されます。

ヒトの学名はホモ・サピエンス（賢い人）ですが、オランダの文化史学者ホイジンガは、人間をホモ・ルーデンス（遊ぶ人）と呼び、遊ぶことに人間の本質を認めています。また、日本の平安時代末期の流行歌を集めた梁塵秘抄（りょうじんひしょう）には、「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけむ 遊ぶ子供の声聞けば 我が身さえこそゆるがるれ」という歌があります。遊ぶために生まれてきた私たちだからこそ、無邪気に遊び、楽しんでいる子供の声に、感動するのだと言っているようです。

先日、2年生と一緒に修学旅行の事前学習として、「ていだかんかん～海とサンゴと小さな奇跡～」という映画を鑑賞しました。環境の悪化によって死滅していくサンゴを回復させ、子供たちに美しい海を見せたいという思いから、サンゴの養殖に取り組んだ金城さんという実在の人物をモデルにした物語でした。

幾度もの困難や失敗、裏切りに、時には心が折れそうになりながらも、妻の理解や友人達の協力によって、思いを貫いていく姿が印象的で、10年の歳月をかけて実現した移植サンゴの産卵シーンには、ちょっとウルウルしてしまいました。

映画自体は、2010年に製作されたもので、その当時のインタビュー記事を見ていたら、金城さんのこんな言葉を見つけました。

インタビュー 夢をあきらめないでがんばる秘訣は？

金城さん できない理由を探すよりは、できる方法を考えたほうが楽しい。
できる方法を考えたら、思っていたよりいい気分になれます。

まさにホモ・ルーデンスです。困難なこと、辛いことの中にあっても、楽しみを見つけることや、遊びの気持ちを忘れない。その先に、夢が叶うときがやって来ると信じている。

もちろん金城さん自身の性格や、家族の理解、周囲の環境、そして沖縄という土台は、彼にとってのギフト(天からの贈り物)であり、誰にでもあるものではありません。でも、言い換えれば皆さんには皆さんにだけのギフトがあるはず。それぞれのギフトを手に、人生にきちんと参加して、積極的に楽しむ。私たちはみな、遊ぶ人です。

ところで、私たちはホモ・ルーデンスであると同時に、ホモ・サピエンスです。賢い人です。賢さは、単に勉強ができるということではありません。賢さは、経験から学ぶ力であり、経験していないことも想像する力です。

様々な経験が私たちを育ててくれます。大変なことが、実は楽しいことにもなることを教えてくれます。また、想像力の中でもっとも身近なものは、相手への思いやりでしょう。私たちは、自分が楽しむことで、周りも楽しめたら良いと考えます。自分の楽しみが、誰かの辛さの上に乗っているのはいやだと考えます。相手の身になって考えながら、楽しむことができるのです。

但し、敢えてここで念を押させてください。遊ぶこと、楽しむことは、自分勝手に自分本位の快樂を求めることではありません。誰かの苦痛と引き換えに楽しむことを、遊びとは決して言いません。

このことを勘違いしている人は、似たような仲間と、しばらくは面白おかしく過ごせたとしても、決して長続きはしません。しかも自分が傷つくだけでなく、周りにも苦痛や悲しみを拡散してしまいます。残念な現実ですが、遊びや楽しみを勘違いしている人たちは存在し、時には犯罪を引き起こすこともあります。それは文字通りの悲劇です。皆さんは、そんな人には決してなってはいけません。

もちろん、気を遣いすぎて、萎縮することはありません。ただ、楽しむときにも、自分以外の人たちが周りにいることを忘れないで欲しいのです。そしてもし、はしゃぎすぎて、誰かを困らせてしまったときや、悲しませてしまったときには、きちんと謝ることのできる人であって欲しいのです。

様々な課題を解決することや新しい工夫をすることを楽しいと感じ、楽しむときに周囲への思いやりを忘れない。それが、私たち人間の賢い遊び方です。豊かな文化を生み出す遊び方です。

皆さんが、そんな風に人生を楽しんでくれることを期待しています。

平成29年10月19日
校長 大貫 晶子